

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12573

研究課題名(和文) 都市部における母親の社会的孤立予防・孤独感軽減プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of program to prevent social isolation and alleviate loneliness for mothers live in urban area

研究代表者

有本 梓 (ARIMOTO, Azusa)

横浜市立大学・医学部・准教授

研究者番号：90451765

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：都市部に暮らす乳幼児を育てる母親に対する社会的孤立予防と孤独感軽減に向けて、孤独感軽減プログラムと孤独感の評価指標を開発することを目的に、文献調査、インタビュー調査(母親39名、保健師・助産師・子育て支援施設職員・民生児童委員など延58名)、無記名自記式アンケート調査(乳幼児の母親1587名)を行った。孤独感の評価指標としてUCLA孤独感尺度第3版短縮版の妥当性と信頼性を示し、乳幼児の母親の孤独感と孤独感に関連する要因を明らかにした。文献と調査結果をまとめ孤独感軽減プログラムの試行計画案を開発した。調査自治体と協働し、孤独感についての調査結果に基づく周知啓発と子育て支援施策の検討を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、1)UCLA孤独感尺度第3版短縮版が乳幼児を育てる母親(一般成人)における妥当性・信頼性・活用可能性を示した点、2)国内外で研究成果が少ない乳幼児を育てる母親の孤独感とその関連要因を明らかにした点である。社会的意義は、1)全世代の課題とされている社会的孤立と孤独感の評価方法を開発した点、2)乳幼児を育てる母親の孤独感および社会的孤立と孤独感に関連する要因を示した点、3)孤独感軽減に向けた対策案を当事者・支援者・自治体と協働で検討し、普及啓発や地域の子育て支援施策への反映を行った点である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop a loneliness reduction program and a loneliness assessment scale to prevent social isolation and reduce loneliness for mothers raising infants and toddlers living in urban communities. We conducted a literature review, an interview research (39 mothers, a total of 58 persons including public health nurses, midwives, staff of child-rearing support facilities, and commissioners for civilian children), and an anonymous self-administered questionnaire survey (1587 mothers of infants and toddlers). The validity and reliability of the short version of the UCLA Loneliness Scale 3rd Edition were demonstrated, and loneliness among mothers of infants and toddlers and factors related to loneliness were clarified. The literature and survey results were summarized and a proposal for a pilot program was developed. Collaboration with the local governments surveyed, we discussed and publicized child-rearing support programs based on the survey on loneliness.

研究分野：地域看護学・公衆衛生看護学

キーワード：乳幼児 母親 孤独感 社会的孤立 プログラム開発 評価 尺度開発 調査研究

1. 研究開始当初の背景

少子高齢化、核家族化、都市化、地域の希薄化などの社会背景により、都市部在住の乳幼児を育てる母親は特に社会的孤立する傾向にあり孤独感を抱きやすいこと(Rokach,2007 他)が指摘されている。特に都市部においては、短期間での転出入、集合住宅の増加、子どもを連れていける場の少なさ、近隣との日常的な付き合いのもちにくさ、深い付き合いを望まない人々の増加、多様な価値観などから、孤独感の問題が示されている(佐藤・田高・有本,2014)。また、乳幼児の母親における育児不安や児童虐待の要因としてソーシャルサポートの欠如(Arimoto,2007)や社会的孤立(有本,2007;2012;2013)が報告されている。疾患・障害を有する乳幼児やその養育者などを対象とした先行研究(有本ら,2012 他)では、特に社会的孤立状態に陥り、孤独感を抱きやすく、支援が必要であることが示唆された。今後の課題は、幅広い対象の母親を対象とする一次予防的なポピュレーションアプローチの開発である。

孤独感とは、個人の社会的関係のネットワークにおいて、量的、質的いずれかで重大な欠損が生じたときに生起する不快な経験であると定義されている(ペプロー&パールマン,1988)。孤独感、乳幼児を育てる母親の誰しもが経験する可能性のある心の状態である一方、その程度が高じると、産後うつ(Dennis,2009)や育児不安などの母親の精神的健康の悪化、ひいては児童虐待につながる可能性もある。そのため、母親自身および子どもの健康や地域社会全体に影響を及ぼす地域保健上重要な課題である。

母親の社会的孤立または孤独感の実態(発現率)については、国内では各自治体での調査報告は散見されるものの、孤独感の実態について評価指標を用いて明らかにした実証研究は希少であった(佐藤・田高・有本,2014;馬場ら,2013)。孤独感に関する研究は、青年期・高齢者を中心に知見がみられ、近年、高齢者においてはプログラム開発ならびに評価まで蓄積されており、先行研究では、孤独感は軽減でき予防可能といわれている。しかし、孤独感に着目した地域在住一般成人を対象とする研究(Russell,1980;1996;Rokach,2007)や乳幼児を持つ母親を対象とした研究は限られていた(Florian&Kruklik,1991;Rokach,2007; Junntila et al,2015 ; Lee et al,2017)。乳幼児の母親の孤独感に関連する要因としては、個人要因として、対人関係の認知パターンである内的作業モデルならびに育児感情の負担感(佐藤・田高・有本,2014)、地域要因としてソーシャルネットワークの家族(佐藤・田高・有本,2014)、育児仲間(佐藤・田高・有本,2014;馬場ら,2013)が明らかとなっていた。海外でも乳幼児を持つ母親を対象とした研究は限られていた。

施策的には、健やか親子 21(第2次)においても、社会全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育て世代の親を孤立させないよう支えていく地域づくりを目指すことが示されている。2015(平成27)年度から、妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対して総合的相談支援を提供する子育て世代包括支援センターが立ち上がり、保健師等の専門職が関係機関とも連携し、妊産婦等に対し切れ目のない支援を提供する体制の構築に向けて取り組みが始まった(厚生労働省,2016)。今後ますます母親個人および地域に対する社会的孤立予防ならびに孤独感の予防・軽減に向けた方策の明確化が求められる。

しかし、母親の社会的孤立や孤独感を予防し軽減する方策の開発と評価に関する実証研究は見当たらず、母親自身の健康および子どもの健やかな成長に向けて、我が国および少子高齢化や都市化の進む先進諸国においても課題となりうる母親の社会的孤立予防・孤独感軽減に向けた方策と評価指標を提言する実証研究が必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、都市部における乳幼児を育てる母親に対する地域特性に応じた社会的孤立予防・孤独感軽減プログラムを開発することである。研究は、Phase (平成29~30年度) Phase (平成31・令和元~令和3年度)からなる。まず【Phase】の目的は、都市部の地域特性および母親の特性を明らかにし社会的孤立予防・孤独感軽減プログラム案および評価指標案を開発することである。次いで、【Phase】の目的は、孤独感の評価指標案を試行し、信頼性、妥当性等を検討し孤独感軽減プログラム案を開発することである。

乳幼児を育てる母親における孤独感軽減プログラムに焦点化することとした。

3. 研究の方法

【Phase】都市部の地域特性をふまえた乳幼児を育てる母親の特性の明確化、社会的孤立予防・孤独感軽減プログラム案ならびに評価指標案の作成

平成29年度は、(1)都市部の地域特性に応じた社会的孤立予防支援・孤独感軽減プログラム案の作成、(2)社会的孤立・孤独感に影響を及ぼす都市部の地域特性および母親の特性の解明を実施した。

(1)については、国内外の文献レビューを行い、主要キーワードを含む国内外の文献を収集し、最新の知見を吟味の上、プログラムのフレームワーク案を検討した。(2)については、都市部2都市において、地域看護診断(既存資料分析)による地域特性の把握、インタビュー調査(母親31名、支援に携わる保健師・子育て支援者4名)を行った。調査項目は、乳幼児の母親における社

会的孤立・孤独感、育児の実態、それらを取り巻く地域環境（人的・物理的、社会資源などを含む）などであった。

平成30年度は、前年度に続き、(1)乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の作成、(2)母親における孤独感の実態と育児経験および母親の特性の解明、(3)評価指標の検討を実施した。

(1)(2)については、国内外の文献レビューを行い、最新の知見を吟味の上、Precede-Proceed model およびアウトカムモデルを用いてプログラムのフレームワークおよびコンセプトを検討した。なお、ここでのフレームワークとは理論的枠組み、全体像を示し、コンセプトは具体的なプログラム計画の要素となる、対象、方法、内容に関する概念・変数を示す。

2都市において、個別・グループインタビュー調査（母親8名、支援に携わる保健師・助産師・子育て支援施設職員・子育て支援者・民生児童委員17名）を追加で行った。

(3)については、評価指標として、UCLA 孤独感尺度第3版および短縮版2種の乳幼児の母親における妥当性・信頼性の検討を行った。

【Phase】母親における孤独感の実態把握と孤独感に関連する要因の解明、孤独感軽減プログラム案の評価指標ならびにプログラム案の検討

令和元年度は、(1)乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の評価指標の検討、(2)母親における孤独感の実態把握と孤独感に関連する要因の解明、(3)乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の開発を実施した。

(1)については、評価指標として、UCLA 孤独感尺度第3版(Rusell, 1996; 舛田, 田高ら, 2012)および短縮版2種の乳幼児の母親における妥当性・信頼性を明らかにし国際学術雑誌にて公表した。(2)については、都市部2地域において評価指標を用いた無記名自記式質問紙調査を各1回行い（対象は乳幼児の母親：配布対象者1506名、649名、計2155名、回答者1056名、531名、計1587名）、孤独感の実態ならびに孤独感に関連する要因を明らかにした。また、社会的孤立がリスクとなる保健師が支援したネグレクトサインを持つ乳児とその母親355事例の分析を行った。さらに、インタビュー調査（支援に携わる保健師・子育て支援施設職員・民生児童委員等17名）を行い、孤独感を抱える養育者の特性をふまえたプログラム案について検討した。(3)については、文献レビューから得た知見と調査結果を統合し、Precede-Proceed model (Green, 2005)を用いてプログラムの枠組みと要素を検討した。

令和2年度は、(1)母親における孤独感に関連する要因の解明とその公表、(2)乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の洗練、および試行の計画を行った。

(1)については、令和元年度までに開発した評価指標「UCLA 孤独感尺度第3版10項目短縮版」(Arimoto & Tadaka, 2019)を用いた乳幼児の母親を対象とする無記名自記式質問紙調査結果から、孤独感の実態ならびに孤独感に関連する要因を明らかにし、学会および国内外学術誌にて公表した。調査自治体と共同し、孤独感の実態調査の分析に基づく子育て支援施策の評価及び検討、周知啓発、学会発表を行った。(2)については、令和元年度までの文献レビュー・インタビュー調査・質問紙調査から抽出したプログラムの枠組みと要素に追加グループインタビュー調査（支援に携わる保健師・子育て支援施設職員・民生児童委員等20名）を加味し、アウトカムモデルを用いて孤独感プログラム案について精選し、プログラムの試行計画案を作成した。

令和3年度は、(1)母親における孤独感に関連する要因の解明と評価指標の確定ならびにその公表、(2)乳幼児の母親における孤独感軽減プログラム案の洗練を行った。

(1)については、令和元年度までに開発した評価指標「UCLA 孤独感尺度第3版10項目短縮版」(Arimoto & Tadaka, 2019)を用いた乳幼児の母親を対象とする無記名自記式質問紙調査結果を分析し、孤独感および社会的孤立の実態ならびに孤独感に関連する要因を検討した。(2)については、文献レビュー・インタビュー調査・質問紙調査から抽出したプログラムの枠組みと要素に調査分析結果を加味し、孤独感プログラム案について検討した。

4. 研究成果

【Phase】都市部の地域特性をふまえた乳幼児を育てる母親の特性の明確化、社会的孤立予防・孤独感軽減プログラム案ならびに評価指標案の作成

平成29年度

(1)都市部の地域特性に応じた孤独感軽減プログラム案の作成

国内外の文献レビューを行い、主要キーワードを含む国内外の文献を収集し、知見を吟味の上、プログラムのフレームワーク案を検討した。社会的孤立と孤独感を区別して捉える必要性が明らかとなり、乳幼児の母親の孤独感軽減プログラムの構成要素として、知識と自信の向上、育児仲間との交流・情報交換によるソーシャルサポートの向上、ソーシャルキャピタルの向上を加味する重要性が先行研究から示唆された(有本 & 田高, 2019)。

(2)社会的孤立・孤独感に影響を及ぼす都市部の地域特性および母親の特性の解明

都市部2都市において、地域看護診断（既存資料分析）による地域特性の把握、インタビュー調査（母親31名、支援に携わる保健師・子育て支援者4名）を行い、乳幼児の母親における社会的孤立・孤独感、育児の実態、それらを取り巻く地域環境（人的・物理的、社会資源などを含

む)などを明らかにした。母親対象インタビューの結果に基づくプログラムの構成要素として、育児知識の提供や親役割観への配慮による育児への自信の向上、ソーシャルサポートにソーシャルキャピタルの向上を加味する重要性が示唆された(有本&田高,2018)。今後の課題として、各要因間の関連の実証、支援者の視点を加味したプログラムの構成要素の明確化が示唆された。

社会的孤立・孤独感に影響を及ぼす都市部の地域特性および母親・子ども・家族の特性が明らかとなった。今後の課題として、文献レビューによる根拠の明確化、特性に加えて実践の有用性を加味したプログラム案の洗練が示唆された。

平成30年度

(1)乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の作成

(2)母親における孤独感の実態と育児経験および母親の特性の解明

国内外の文献レビューを行い、最新の知見を吟味の上、Precede-Proceed model およびアウトカムモデルを用いてプログラムのフレームワークおよびコンセプトを検討した。母親の孤独感軽減プログラムの構成要素として、加味すべき要素が示され、これは高齢者の孤独感軽減に効果的な介入に関する知見と合致していた。2都市におけるインタビュー調査(母親8名、支援に携わる保健師・助産師・子育て支援施設職員・子育て支援者・民生児童委員17名)から乳幼児の母親における孤独感、育児の実態を明らかにし、孤独感軽減プログラム案の洗練に活用した。

(3)孤独感の評価指標の検討

評価指標として、UCLA 孤独感尺度第3版および短縮版2種の乳幼児の母親における妥当性・信頼性を明らかにした(Arimoto&Tadaka,2019)。

乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案のフレームワークとコンセプトが明らかとなった。今後の課題として、疫学調査による実態および実践の有用性を加味したプログラム案の洗練と評価計画の必要性が示唆された。

【Phase】母親における孤独感の実態把握と孤独感に関連する要因の解明、孤独感軽減プログラム案の評価指標ならびにプログラム案の検討

令和元年度

(1)乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の評価指標の検討

評価指標として、UCLA 孤独感尺度第3版短縮版2種の乳幼児の母親における妥当性・信頼性を明らかにし国際学術雑誌にて公表した(Arimoto&Tadaka,2019)。

(2)母親における孤独感の実態把握と孤独感に関連する要因の解明

2都市において評価指標を用いた無記名自記式質問紙調査(乳幼児の母親1587名)を行い、孤独感の実態ならびに孤独感に関連する要因を明らかにした。また、保健師が支援したネグレクトサインを持つ乳児とその母親355事例の分析により孤立群ではネグレクトサインが有意に多く、特に留意すべき対象であることを明らかにした。さらに、インタビュー調査(支援に携わる保健師・子育て支援施設職員・民生児童委員等17名)を行い(有本&田高,2022)、孤独感を抱える養育者の特性をふまえたプログラム案について検討した。

(3)乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の開発

文献レビューから得た知見と調査結果を統合し、Precede-Proceed model を用いてプログラムの枠組みと要素を検討した。プログラムの計画実施評価のための Precede-Proceed model (Green,2005)を用いたプログラムのフレームワークに、分析から得られた変数間の関係や特に重要と考えられる変数をコンセプトとして組み込み、インタビュー調査の結果と統合した。アウトカムとなる孤独感などと各コンセプト(ターゲットとすべき母親や地域住民の特性、プログラムで盛り込むべき要因)の関連を明らかにした。

乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の枠組みと要素が、調査による実態を加味して明らかとなった。今後の課題として、評価指標を用いた分析による乳幼児の母親における孤独感に関連する要因の解明、結果をふまえたプログラム案の検討が示唆された。

令和2年度

(1)乳幼児の母親における孤独感に関連する要因の解明とその公表

令和元年度までに開発した評価指標「UCLA 孤独感尺度第3版10項目短縮版」(Arimoto&Tadaka,2019)を用いた乳幼児の母親を対象とする無記名自記式質問紙調査結果から、社会的孤立した乳幼児の母親は非孤立群に比べ、孤独感が有意に高く、社会的孤立の状況により孤独感得点が異なり、客観的な社会的交流の不足が主観的な感情である孤独感を高めていると考えられた(有本&田高,2020;Arimoto&Tadaka,2021)。調査自治体と共同し、孤独感の実態調査の分析に基づく子育て支援施策の評価及び検討、周知啓発、学会発表を行い、学会発表演題は受賞した。

(2)乳幼児の母親に対する孤独感軽減プログラム案の洗練、および試行の計画

令和元年度までの文献レビュー・インタビュー調査・質問紙調査から抽出したプログラムの枠組みと要素に、追加グループインタビュー調査を加え、アウトカムモデルによりプログラムの構成要素を再検討した。今後の課題として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって生じた社会的情勢の変化をふまえたプログラム案の検討が示唆された。

令和3年度

(1)母親における孤独感に関連する要因の解明と評価指標の確定ならびにその公表

令和元年度までに開発した評価指標「UCLA 孤独感尺度第3版 10項目短縮版」(Arimoto & Tadaka, 2019)を用いた乳幼児の母親を対象とする無記名自記式質問紙調査結果を分析し、孤独感および社会的孤立の実態ならびに孤独感に関連する要因を明らかにし、学会および国際学術誌などにて公表した(Arimoto & Tadaka, 2021)。社会的孤立群 (34.8%)の孤独感得点は、非孤立群 (65.2%)より有意に高かった。社会的孤立を媒介変数として分析した結果、乳幼児の母親における孤独感の高さに関連する要因は個人家族要因では育児や生活上の困りごとの数が多いこと、朝食欠食、パートナ の家事育児支援行動が少ないことであり、地域要因では育児に関する相談相手が少ないこと、地域への愛着が低いことであった(Arimoto & Tadaka, 2021)。

(2)乳幼児の母親における孤独感軽減プログラム案の洗練

文献レビュー・インタビュー調査・質問紙調査から抽出したプログラムの枠組みと要素に調査分析結果を加味し、孤独感プログラム案について洗練した。

今後の課題は、プログラム案の試行および評価である。

[引用文献]

- 有本梓(2007). 児童虐待に対する保健師活動に関する文献レビュー. 日本地域看護学会誌, 9, 37-45.
- Arimoto A, Murashima S(2007): Child-rearing Anxiety and Its Correlates Among Japanese Mothers Screened at 18-month Infant Health Checkups. Public Health Nursing, 24(2), 101-110.
- Arimoto A, Murashima S(2008): Utilization of parenting groups and consultation services as parenting support services by Japanese mothers of 18 month old children. Japan Journal of Nursing Science, 5(2), 73-82.
- 有本梓, 横山由美 他(2012): 訪問看護師が在宅重症心身障害児の母親を支援する際に重要と考えている点. 日本地域看護学会誌. 14(2), 43-52.
- 有本梓, 岩崎りほ, 他(2013): ネグレクトのリスクを持つ家庭に対する保健師による個別支援の方法. 横浜看護学雑誌. 6(1): 15-22.
- Arimoto A, Tadaka E(2019): Reliability and validity of Japanese versions of the UCLA Loneliness scale version 3 for use among mothers with infants and toddlers: a cross-sectional study. BMC Women's Health, 2019, July, 105, doi:org/10.1186/s12905-019-0792-4
- Arimoto A & Tadaka E(2021): Individual, family, and community factors related to loneliness in mothers raising children less than 3 years of age: a cross-sectional study. BMC Women's Health 21 (226), 2021. DOI: 10.1186/s12905-021-01365-7
- 有本梓, 田高悦子(2022): 妊産婦に対する孤立に着目した児童虐待の発生予防に向けた看護職による相談支援. 横浜看護学雑誌, 15(1), 30-38.
- 馬場千恵, 村山洋史, 田口敦子, 村嶋幸代(2013): 乳児を持つ母親の孤独感と社会との関連について 家族や友達とのソーシャルネットワークとソーシャルサポート. 日本公衆衛生雑誌, 60(12):727-737.
- Dennis CL, Hodnett E, et al(2009): Effects of peer support on prevention of postnatal depression among high risk women: multisite randomized controlled trial. BMJ, 338:a3064, 2009.
- Frorian V, Krulik T(1991): Loneliness and social support of mothers of chronically ill children. Soc Sci & Med. 32(1), 1291-1296, 1991.
- Green L, Kreuter M(2005): Health Program Planning: An Educational and Ecological Approach. 4th edition ed. McGraw-Hill Higher Education; New York, NY.
- Junttila N, Ahlqvist-Björkroth S, et al. (2013). Mothers' and fathers' loneliness during pregnancy, infancy and toddlerhood. Psychology and Education, 50, 98-104.
- Junttila N, Ahlqvist Björkroth S, et al. (2015). Intercorrelations and developmental pathways of mothers' and fathers' loneliness during pregnancy, infancy and toddlerhood - STEPS study. Scandinavian Journal of Psychology, 56, 482-488.
- 厚生労働省(2016). 平成28年版厚生労働白書.
- ペプローLA, パールマンD, 編(1988): 加藤義明. 監訳. 孤独感の心理学. 東京: 誠信書房, 1988;4-8.
- Lee K, Vasileiou K, Barnett J. 'Lonely within the mother': An exploratory study of first-time mothers' experiences of loneliness Health Psychol. 2017. doi: 10.1177/1359105317723451.
- 舩田ゆづり, 田高悦子, 臺有桂(2012): 高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度(第3版)の開発とその信頼性・妥当性の検討. 日本地域看護学会誌, 15(1): 25-32.
- Rokach A(2007): Self-perception of the antecedents of loneliness among new mothers and pregnant women. Psychol Rep, 100(1), 231-243.
- Russell, D. W. (1996). UCLA Loneliness Scale (version 3): Reliability, validity, and factor structure. Journal of Personality Assessment, 66(1), 20-40. https://doi.org/10.1207/s15327752jpa6601_2
- Russell, D., Peplau, L. A., & Cutrona, C. E. (1980). The revised UCLA Loneliness Scale: Concurrent and discriminant validity evidence. Journal of Personality and Social Psychology, 39, 472-480.
- 佐藤美樹, 田高悦子, 有本梓(2014): 都市部在住の乳幼児を持つ母親の孤独感に関連する要因 乳幼児の年齢集団別の検討. 日本公衆衛生雑誌. 61(3), 121-129.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Arimoto Azusa, Tadaka Etsuko	4. 巻 19
2. 論文標題 Reliability and validity of Japanese versions of the UCLA loneliness scale version 3 for use among mothers with infants and toddlers: a cross-sectional study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Women's Health	6. 最初と最後の頁 105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12905-019-0792-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Arimoto Azusa, Tadaka Etsuko	4. 巻 21
2. 論文標題 Individual, family, and community factors related to loneliness in mothers raising children less than 3?years of age: a cross-sectional study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Women's Health	6. 最初と最後の頁 226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12905-021-01365-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 有本梓, 田高悦子	4. 巻 15
2. 論文標題 妊産婦に対する孤立に着目した児童虐待の発生予防に向けた看護職による相談支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 横浜看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Arimoto A & Tadaka E
2. 発表標題 Cognitive and behavioral factors related to loneliness among mothers with preschool children: A community-based cross-sectional study
3. 学会等名 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有本梓, 伊藤絵梨子, 岩田由香, 田高悦子
2. 発表標題 乳幼児を育てる母親における育児自己効力感と地域社会要因との関連 育児の困難さを軽減する個人・家族・集団・地域環境支援に向けて
3. 学会等名 日本地域看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 乳幼児を育てる壮年期地域住民における地域コミットメント尺度の妥当性・信頼性の検証
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 乳幼児を育てる母親における孤独感に関連する要因の検討 Precede-Proceedモデルによるプログラム開発 ,
3. 学会等名 日本地域看護学会第23回学術集会, 紙面
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 乳幼児の母親における孤独感に関連する要因-社会的孤立の状況による比較-
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会, オンライン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 乳幼児の母親における地域コミットメントの実態と関連要因 親の孤立を防ぐ地域環境づくりに向けて
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会, オンライン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 アウトカムモデルによる乳幼児を育てる母親における社会的孤立予防プログラムの構成要素の明確化
3. 学会等名 日本公衆衛生看護学会第9回学術集会, オンライン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 ネグレクトサインの見られる乳児と養育者における社会的孤立の有無による特徴の比較
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会, 横浜
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 母親の孤独感軽減プログラム開発に向けたアウトカムモデルに基づく文献検討
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 乳幼児を育てる母親におけるUCLA孤独感尺度の妥当性・信頼性の検証
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 PRECEDE-PROCEEDモデル活用による母親の孤独感軽減を介したQOL向上プログラムの開発
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有本梓, 田高悦子
2. 発表標題 Precede-Proceed modelによる母親の孤独感を介した精神的 Well-being向上プログラムの開発 文献レビューによる検討
3. 学会等名 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1. 研究成果報告ウェブサイト 横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野 > 研究 > ツール集 http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yuc_chn/wp/study/study/</p> <p>2. 受賞：第9回日本公衆衛生看護学会学術集会企画委員会賞（活動報告部門） 地域と行政が協働で取り組む子育てしやすい地域づくりについての検討 子育て実態調査の孤独感に着目した検討</p> <p>3. その他の成果報告 1) 平成29年度「乳幼児の母親における社会的孤立・孤独感軽減に向けたプログラムの開発と評価～乳幼児の母親における育児の体験と孤独感の実態に関する記述的研究～」インタビュー調査 協力自治体向け報告書. 2018年3月 2) 平成29年度「乳幼児の母親における社会的孤立・孤独感軽減に向けたプログラムの開発と評価～乳幼児の母親における育児の体験と孤独感の実態に関する記述的研究～」インタビュー調査 対象者向け報告書. 2018年3月 3) 平成30年度「乳幼児の母親における社会的孤立・孤独感軽減に向けたプログラムの開発と評価」インタビュー調査報告書. 2019年3月 4) 令和元年度対象自治体向け子育て実態アンケート調査報告書, 2020年3月、2020年6月 5) 調査協力自治体との協働によるアンケート結果解説動画DVD, 2021年1月 6) 調査協力自治体と協働作成による普及啓発用リーフレット, 2021年3月</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田高 悦子 (Tadaka Etsuko) (30333727)	横浜市立大学・医学部・教授 (22701)	
研究分担者	大河内 彩子(井出彩子) (Okochi Ayako) (70533074)	横浜市立大学・医学部・准教授 (22701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関